

# 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400130		
法人名	社会福祉法人あまのほ		
事業所名	グループホーム楽々むら		
所在地	兵庫県豊岡市城崎町楽々浦419-6		
自己評価作成日	H24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年2月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成24年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域へ外出する機会を大切にしており、希望を伺い企画を立てて実施している。専門医の助言のもと生活歴を調べ情報収集し施設でのケアに繋げている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は風光明媚な円山川の河口に面し、コウノトリや水鳥が舞う快適な環境の中にある。敷地内には鳥居や社が祭られ、薪能等の催しを行うホールもある。開設から1年8ヶ月が経ち、管理者は前職のグループホームでの経験を活かし、また、職員は、開設後1年目に併設の特別養護老人ホームから経験ある職員を配置転換し、認知症高齢者介護の専門職として業務に携わっている。具体的には、1年目は利用者が事業所に慣れて落ち着いた生活が送れるように支援し、2年目は利用者個々の思いや訴えを聞いて、一人ひとりにあった支援を行い、外出等を通じてアクティブな時間が送れるように支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員の名札の裏に理念を書いたカードを入れ職員はいつでも身近な所で理念を共有できるように対応し、実践につなげている。	施設長が新人研修の際、年度初めに現任職員に理念について説明している。理念を実践するために、月間目標を立て、実現できたかどうか振り返っている。介護に行き詰った時には理念に立ち返ることを習慣づけ、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動等に積極的に参加し出来るだけ交流の場を広げられるように努めている。地域のボランティアによる踊りや演奏会等もあり地域との交流を大切にしている。	自治会に加入し区費を納めている。地域の鼻かけ地蔵祭りの時は、草刈り、掃除を手伝う。地域の「いきいきサロン」に参加したり、近くの小学校の4年生と交流会を行った。また、道路の冠水時には近隣の家に施設の駐車場を提供する等地域に溶け込んだ交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の代表の方に参加していただき認知症の方の理解、支援の方法について話し合う場を設けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において実施しているケアへの取組等を評価、指導していただき、その内容を現場へ反映しサービス向上に努めている。	楽々浦区長、家族、地域包括支援センターの参加を得て、2ヶ月に1回開催している。議題は日頃の活動と事故報告にとどまっている。事故について、詳細な質問を受けたことから事故報告書の改善につながった。	事業所からの一方的な報告になっているので、出席者の役割を踏まえて、議題の幅を広げて、色々な意見、情報を得る工夫が望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員へ運営推進会議開催の際、事業所の実情やケアサービスの取り組みの内容等を報告している。	制度上のこと等を高年福祉課に相談を持ちかけたり、役所からは利用者に関する問い合わせ等がある。また、地域包括支援センターから入居者情報をもらうなど、いい関係が築かれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会を法人内に設置し身体拘束研修を定期的に行い職員の意識向上と共に拘束について話し合う場を設け拘束しないケアに取り組んでいる。	表玄関はテンキーで開けるが、ユニットごとの玄関の施錠はしていない。法人全体のリスク委員会において、年1回研修を行っている。グループホーム独自では毎月身体拘束について話し合いを実施している。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	リスク委員会を法人内に設置し、防止に努めている。	倫理綱領の説明時に虐待について説明している。夜勤者を2名にし、勤務時間を21:00～7:00と短時間にするなど、勤務体制を改善して、職員のストレス軽減を図っている。また、職員同士で相談できる雰囲気作りもしている。虐待の事例はない。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については今後、学ぶ機会を設け権利擁護に関する制度の理解に努めていきたい。	「活用しよう！社会資源」の綴りの中に、成年後見制度の資料を入れ、職員がいつでも見られる所に置いている。研修は実施していない。	専門家につなげる支援ができる程度の基本的な研修の実施とパンフレットの設置をしてほしい。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な聞き取り、説明を行っている。また、改定等があった場合はその都度説明会を開催し十分な説明を行っている。	契約時に、家族の協力が重要であること、看取り可能であること、特別養護老人ホームへの入所について、に重点を置いて、管理者がていねいに、時間をかけて説明している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し意見要望を表せる機会を設けている。また、アンケート調査を実施している。	法人運営への協力を目的に家族会を設立した。春・秋・雑々祭りの時の年3回開催している。利用者の意見をもとに、外気を取り込む窓を業者を呼んで塞いだり、アンケートの結果、利用者の様子を月1回、請求書と一緒に家族に送ることを実現した。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケート調査の実施、また、個人面談等を通じ意見を聞く機会を設けている。	施設長と全職員1対1で面談を行う。事前に渡したアンケートをもとに要望、意見を聞いている。ユニフォームの枚数を増やしたり、ラーメンを食べたい利用者のために、屋台を呼ぶなど、些細なことも取り上げて実現している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等を実施することにより職員がやりがい等、向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ委員会を法人内に設置し内部、外部の研修について企画立案し定期的に実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との間で実践研修会を定期的に行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員が家族、本人より不安、要望を聞き本人が安心して生活出来る関係作りに努めている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の要望、不安について十分に聞き取りを行い利用者が安心して生活できるように家族との関係づくりに努めている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接する特養、ケアハウス、ショートステイ、居宅介護支援事業所等のサービスも含め適切なサービス利用が選択できるように努めている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を生活者として捉え職員と協働しながら生活を送れるような支援に努めている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には十分な情報提供を行い、本人、家族の意向を尊重したケアを実施し、家族との絆が断ち切れないような関係づくりに努めている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のライフストーリー、バックグラウンドを家族又は本人との日々のコミュニケーションの中から情報収集し馴染みの関係が途切れないよう個別ケアを通じ支援に努めている。	ライフストーリー、バックグラウンドを考慮したサービス計画が立てられ、支援されている。個別の地域とのつながりを大切にしている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しレクリエーション等により楽しみを提供することで円滑なコミュニケーションが図れるように配慮している。また、職員が日々の生活の中で適切に利用者の状態を把握し関係が構築できるよう支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の利用者については他施設(特養)に入居されているケースがあるがその後の本人、家族の経過についてフォローは行っていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から利用者一人ひとりの思いを把握し自己実現へ向け取り組んでいる。	「家に帰りたい」願望の利用者を自宅にお連れし、家族と一緒に自宅で過ごした記録を確認。願い、要望をくみ取って、実現につなげている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に一人ひとりの生活歴や馴染みの関係を情報収集しこれまでと変わらない生活が出来よう支援している。また職員間で情報を共有しその人らしく生活出来るよう支援している。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員により心身の状態を把握し、現状の把握に努めている。また、職員間で共通認識を持ちケアにあたっている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が月1回モニタリングを行い、6か月毎にケアカンファレンスを実施しケアプランを作成している。	職員、管理者、ケアマネージャー、看護師(特別養護老人ホームと兼務)が出席して、6ヶ月に1回ケアカンファレンスを実施し見直している。看護師を通じて、嘱託医の意見を取り入れている。家族からは面会時に意見を聞くようにしている。	ケアカンファレンスに家族の意見を取り入れる努力をしてほしい。
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等については個別に記録に残し、職員間で共有している。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内に特養、ショートステイ、居宅介護支援事業所、デイサービス、ケアハウスのサービスがあり多機能化に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の出来る力に着目し、力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しんでいただけるよう努力している。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時適切な医療を受けられるよう嘱託医が配置されており、日々の健康管理を多職種協働で行っている。	協力医療機関の浅見医院、賀嶋医院から月2回と精神科から月1回、歯科から月3回の往診があり、医療体制が整備されている。協力病院への受診は職員が対応、眼科、かかりつけ医への受診は家族へ依頼している。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師が配置されており、心身の状態に変化がみられた時は報告し、指示を仰いでいる。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は適切に情報提供を行い、退院時は必要であれば退院時カンファレンスを依頼することとしている。	公立豊岡病院が主な入院先になっている。要望すると、カンファレンスを開催してくれる。法人の敷地の近くに医療用ヘリポートがあるなど、病院とのよい関係が構築されている。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えられた時は嘱託医(主治医)から家族へ状態を説明し終末期をどう過ごすのか話し合いを行う、看護師、介護職員も同席し今後のケアの方向性を家族の意向等を聞き入れ多職種協働で行う。	法人全体が看取りをする方針である。指針も作成されている。また、重度化した場合の入浴設備はケアハウスのものが使用でき、医師の協力体制も構築されている。職員への周知もできている。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと救命救急講習を定期的実施して急変時や事故発生時に備えている。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施し利用者が避難できる方法を職員は身につけている。また、消防署より防災についての指導を受けている。	区長を通じて、地域の消防団と連携している。事業所を非常時の避難場所とし、備蓄食品も完備している。特別養護老人ホームとの協力体制もできており、夜間を想定した避難訓練も実施している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの対応において人格を尊重し誇りやその人らしさを大切にケアに努めている。プライバシーにおいてもしっかり守られるよう配慮している。	訴えの多い利用者にもしっかり受容することを心がけるよう教育している。トイレ対応の声かけをさりげなくすること、大きな声を出さないことに、特に注意している。その場、その場で聞き逃さず注意するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から本人の思いや希望されていることを汲み取り自己決定が出来るよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに添った過ごし方を大切にし型にとらわれないように配慮している。希望があればそれに添う形で対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを尊重したケアに努めている。また、希望、要望があればそれに添う形で支援している。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には盛り付け、配膳をいただいている。出来るだけ生活感を演出できるようにしている。	利用者の心身の状況により、ユニットでの食事準備や後片付け等への参加には差があるが、できることは手伝ってもらっている。嗜好調査は職員の聞き取りと、ご馳走を作るための会議として「ごちそう会議」がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスを計画している。利用者それぞれの状態に合わせ食種を検討し食べやすい工夫をしている。水分摂取量は記録から分かるように日々の摂取量の把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、看護師と連携し適切な口腔ケアの方法を利用者へ声掛け、介助を行っている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め一人ひとりの状態に合わせた介助方法をとっている。	現在3人の利用者が紙パンツを使用している。排泄チェック表を活用して、排泄の自立に向けて一人ひとりの身体状況に合わせ、本人の気持ちを尊重した対応を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的な水分補給、適度な運動(ラジオ体操)等により予防に努めている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて午前か午後に入浴している。入浴の頻度においては週2回を基本としている。	設備的には脱衣場が少し狭いも、浴室内は広く閉塞感はない。菖蒲湯等の季節に合わせた入浴も行っている。入浴回数は週2回が基本となっているが、回数増については家族等の要望もある。	事業所の方針である「普通の生活を送ることの支援」から考えて、利用者一人ひとりの身体保清や心身の活性化のためにも、入浴回数と対応のあり方について改めて検討してほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方等にはハンドマッサージを施行するなど安心して気持ちよく眠れるようなケアを実施している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携し服薬支援を行っている。普段の生活の中から症状の変化を観察し状態に変化がみられれば看護師へ報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中から一人ひとりの生活歴や楽しみ事等を情報収集し個別対応にて気分転換等の支援を行っている。また、集団においても定期的にレクリエーション等楽しみを提供している。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の思いである場所や行ってみたい場所等を日々の会話の中から聞きとり個別対応にて実施することで利用者の思いを実現している。	事業所の2年目の方針として、外出支援を掲げ、利用者とは日々接する中から一人ひとりの思いを聞き取り、行きたい所や時には生まれた場所まで出かけて行き利用者や職員が思いを共有して支援に活かす事もある。散歩等も随時対応している。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身近な物が買い物できる程度のお金を希望により所持して頂いている。また、自己管理の困難な方については施設にて管理させていただいている。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に設置されている公衆電話等にて家族や知人に電話できるように支援している。電話番号を確認したり誘導の介助がスムーズに行えるよう努めている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて生活出来る空間作りを工夫し無駄な刺激がないよう配慮している。また、季節感のある設えを行えるよう考えている。	1丁目、2丁目の呼称で2ユニットに分かれている。各ユニット玄関は格子戸で共用空間へはそれぞれ障子やロールカーテンで仕切られて雰囲気がある。レトロな下駄箱上には民芸品も飾られていた。室内が少し暗く改善中である。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはいつでも外の景色が眺められるよう環境整備を行い。ロビーでは一人で新聞を読める空間を提供している。また、気の合った利用者同士が円滑にコミュニケーションを図れるよう職員が間に入り対応している。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ以前自宅で過ごされていた時と同じように馴染の物を持参して頂き自由にレイアウトして頂くことで居心地のよい空間が提供できるように配慮している。	各居室からは周辺の景色も見え明るい。自宅から持参したテレビや家具が配置されていた。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン、トイレ、利用者の団樂場所をユニット内リビングに配置し利用者に分かりやすい環境を提供している。また、ユニット間には地域交流スペースを設けカルチャー教室等を開催し利用者一人ひとりの力を生かした環境の整備を行っている。		